

第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成22年10月5日(火) 6校時

場 所 6年教室

児 童 男子 4名 女子 1名 計 5名

指導者 福 田 友 子

1. 教材名 聞く人の心に届くように発表しよう

「今、わたしは、ぼくは」 (光村 6年下)

2. 児童の実態

学級の児童は、一学期に「学級討論会をしよう」で一つの問題を肯定・否定の両面から考えることによって、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う学習をした。その中で話したいことが聞き手に理解してもらえるような話し方や話し手の意図を考える聞き方を学んでいる。朝の会では、学校生活やテレビのニュースや新聞の記事から話題を選び、感想や意見を混えてスピーチを行っている。聞き手は、それに対して質問したり感想を述べたりすることを継続してきた。その結果児童は、自分の考えの後に理由をつけて話したり、相手の意図を受けて自分の考えを話したりすることができるようになってきている。また、授業中や日常生活の中でも、自分の考えを自分の言葉で話すことができるようになってきている。しかし、少人数であるため、多様な考えを生み出すことが難しく、考えの幅が広がらず、話し合い活動が深まらないこともある。

3. 教材について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「話すこと・聞くこと」の目標は「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについての的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」である。

本教材は、一番伝えたいことが効果的に伝わるようにスピーチをすることを目標としている。そのためには、話の組み立てや話し方の工夫を行うことが大事な学習となる。小学校生活の思い出の中から一人一人が自分を成長させるきっかけとなった体験を選び、幅広い視野で取材することによって自分の思いが伝わるような組み立てを考えさせたい。発表会では、発表者の思いを受けとめ、質問や感想などのやりとりを通して、お互いの成長を認め合い、残りの小学校生活を有意義なものにしようとする意欲を高めていきたい。

4. 指導にあたって

「見通す」段階では、スピーチをする目的や手順を知り、学習の見通しをもつ活動を

行う。教材文やCDを用いて発表会の具体的なイメージをとらえさせる。スピーチを録画し卒業DVDに納めるということを知らせ、小学校生活の記念となるスピーチをつくりたいという目的意識を強く持たせたい。

「深める」段階では、発表の準備を行う。まず、これまでの生活をふり返らせ、忘れられない出来事や言葉などを思い出させる。その中から自分を成長させるきっかけとなった事柄を選び、伝えたい話題を決める。自分の思いが伝わるような体験や出来事や言葉をくわしく取材し、学習シートに書き出す。伝えたいことの中心や自分の思いが分かりやすく伝わるように組み立てを工夫し、スピーチメモをつくらせる。

「確かめる」段階では、発表の練習を行う。1名のスピーチをとりあげ、話の内容や組み立ての工夫について全員で検討しアドバイスしあう。その話し合いをもとに自分のスピーチを見直しする。話しだしや組み立てについてスピーチメモに加筆修正を行い、グループで確かめ合う。次に、効果的な話し方の工夫についてチェックしながら聞き合い、アドバイスしあう。

「広げる」段階では、発表会を行い、感想を交流し合う。話し手のスピーチを組み立てや話し方の工夫と内容の両面に目を向けて聞くことができるよう、視点を明確にした聞き取りシートを用意する。自分の体験と重ね合わせながら感想を述べ合う中で一人一人の成長を互いに認め合い、残された小学校生活への想いを深める場としたい。また、発表会後には、単元の学習全体をふりかえり相互評価や自己評価を行う。発表会をふりかえる活動を行う。

《言語活動を支える5つの言語意識》

- | | |
|----------|---|
| ○相手意識 | 学級の友達に |
| ○目的意識 | 小学校生活をふり返って、心に残っていることを伝えるために |
| ○場面・状況意識 | 「今、わたしは、ぼくは」の思いを話す発表会を開く。 |
| ○方法意識 | 伝えたい事が聞く人に伝わるように構成や話し方について工夫し、スピーチを行う。 |
| ○評価意識 | 話の組み立てや話し方を工夫して自分の伝えたい事を話す事ができたか、相手が伝えたいことを聞き取ることができたかを相互評価や自己評価する。 |

5. 学習指導目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- 小学校生活をふり返り、一番伝えたいことが効果的に伝わるようにスピーチをしようとしている。

(2) 話す・聞く能力

- ◎ 小学校生活をふり返って思うことを伝えたい事柄が明確に伝わるように話の構成

を工夫しながら相手や場面に応じた適切な言葉遣いで話す事ができる。

(話す・聞く イ)

- 友達の話を聞き、エピソードから話し手の意図をとらえ、自分の体験と比べて感想を述べることができる。(話す・聞く エ)

(3) 言語についての知識、理解、技能

- 文章には、いろいろな構成があることを理解し、効果的な話の構成を考えることができる。(伝国イ (キ))
- 相手や場面に応じて敬語など丁寧な言葉遣いができる。(伝国イ (ク))

6. 学習指導計画 (話す・聞く 6時間)

段階	学習内容	主な学習活動	評価規準 (話す・聞く)
見通す (1)	スピーチをする目的や手順を知り、学習の見通しをもつ。	・小学校生活で記念になるスピーチをするという目的を明確にもち、スピーチの手順を考える。(1時間)	・今の自分を見つめるスピーチをするという学習に意欲をもって取り組もうとしている。(発言・行動観察)
深める (2)	自分のスピーチの話題を決め、取材、構成を行って、スピーチメモをつくる。	・小学校生活をふり返り、伝えたい事を決め、材料を集める。(1時間) ・伝えたい事が正確に、印象深く伝わるように、話の組み立てを考える。(1時間) ※書1 自分の考えを持つための書く活動	・伝えたい事を決め、自分の成長のきっかけとなった体験を選んでいる。(学習シート) ・自分の思いが印象深く伝わるようにスピーチの組み立てをくふうしている (スピーチメモ)
確かめる (2) 本時 1 / 2	よりよいスピーチを考えて、スピーチメモの手直しをする。	・スピーチメモの組み立てを見直し、よりよいスピーチを考える。(1時間) ※書2 自分の考えを深めるための書く活動	・伝えたい事が伝わるように組み立てに目を向けて話したり、聞いたりし、よりよいスピーチを考えている。 (発言・学習シート・スピ

	グループで、発表会に向けて練習をする。	・友達のアドバイスをし合い効果的な発表になるように練習する。 (1時間) ※書3 互いの考えを深めるための書く活動	ーチメモ) ・互いにアドバイスし、スピーチの組み立てと話し方の工夫を見直している。 (発言 スピーチメモ)
広げる (1)	発表会をし、学習のまとめをする。	聞き手の心にとどく発表をする。学習のまとめをする。 (1時間) ※書4 ふりかえりのための書く活動	・話の組み立てや話し方を工夫し、中心となる部分の声の大きさや調子などに気をつけてスピーチをしている。 ・話し手の意図を考えながらスピーチを聞いて、自分の体験と比べながら感想を述べている。 (学習シート)

7. 本時の指導

(1) 目標

- ◎ 伝えたいことが、聞く人によりよく伝わるように、話の組み立てを工夫することができる。

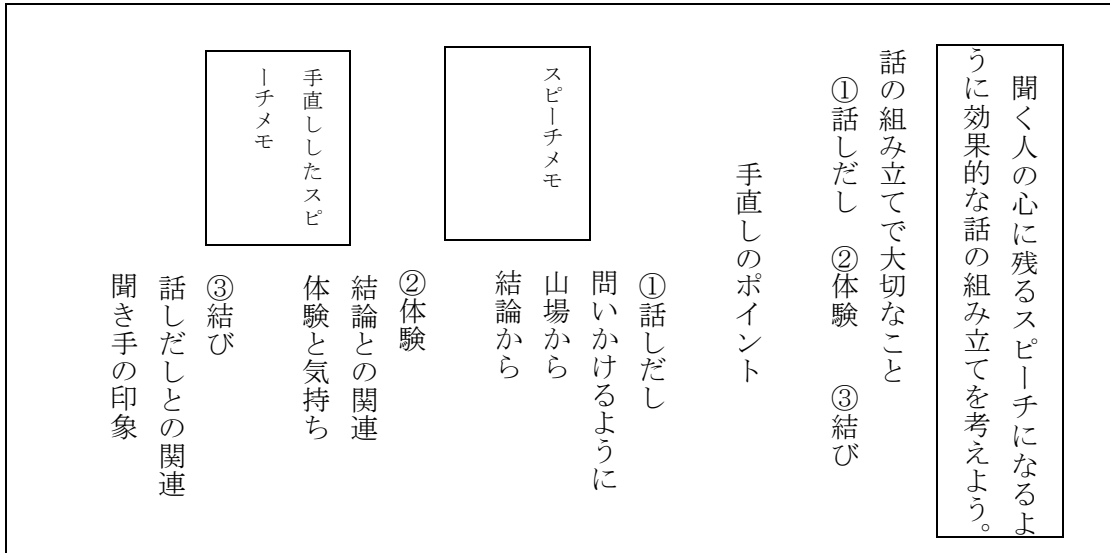
(2) 展開

過程	学習内容	話す・聞く能力を高めるための主な活動	教師の支援
導入 5	1 前時の学習を想起し、学習課題をつかむ。	○スピーチメモの手直しのしかたを知り、効果的なスピーチを考えていくということを確認する。 聞く人の心に残るスピーチになるよう効果的な話の組み立てを考えよう。	・前時につくったスピーチメモをふりかえらせ、よりよいスピーチにしようと意欲を持たせる。

展 開	<p>2 効果的な発表について大切なことを確認する。</p> <p>3 1人のスピーチをモデルにし、手直しのしかたを考える。</p> <p>4 自分のスピーチを手直しし、グループで聞きあい、効果を確認め合う。</p>	<p>○聞く人の心に残るような発表にするために大切なことを確認する。 ①話しだし ②体験の挿入 ③結び</p> <p>○聞き手は、初めに質問や感想を述べ、そのやりとりを受けて話の組み立てについてアドバイスする。</p> <p>○効果的なスピーチにするための手直しのしかたを確認する。</p> <p>○確認した手直しのしかたで自分のスピーチメモを手直しする。</p>	<p>・大切なことについては、スピーチメモをつくるときに考えたことをふりかえらせる。</p> <p>・スピーチメモを拡大した物を掲示し、組み立てを聞き手に意識させる。</p> <p>・アドバイスについては、内容について感想や意見を十分に話してから行わせる。</p> <p>・3つの観点でのアドバイスが無理な子には、話しだしについて話すようにさせる。</p> <p>・まず、話しだしから見直すよう助言する。</p>
	35	<p>※書2 自分の考えを深めるための書く活動</p> <p>① 話しだしがわかるようにモデルのスピーチを聞き取りメモする。(学習シート)</p> <p>② 自分のスピーチメモの話しだしを中心に手直しする。(スピーチメモ)</p>	
		<p>○グループで聞き合い、手直しした効果について確かめ合う。</p>	<p>・手直しする前と比較し、効果を確認めさせる。</p>
	<p>具体の評価規準</p> <p>十分満足： ・効果的な組み立てで大切な3つの観点から自分のスピーチを手直ししている。</p> <p>おおむね満足： ・効果的な組み立てで大切な観点の2つを確認め、自分のスピーチを手直ししている。</p> <p>支援が必要な子への手立て： ・話しだしの工夫ができない子には、モデルで確かめたことを助言する。</p>		

終 末 5	5 学習のまとめをする。	○本時の学習について振り返り、自己評価する。	・よりよいスピーチになるように組み立ての工夫ができたかふりかえさせる。
	6 次時の予告を聞く。		

(3) 板書計画



(4) 座席表

- ① 関心・意欲・態度
興味関心をもって意欲的に学習に取り組んでいる。
- ② 話すこと
事柄や順序を考えながら、相手に分かるように話すことができる。
- ③ 聞くこと
大切なことを落とさずに聞くことができる。

4①	◎
②	◎
③	○

2①	○
②	○
③	△

1①	○
②	○
③	○

3①	◎
②	◎
③	○

5①	◎
②	○
③	◎